

令和4年度三重県農業大学校評価シート

第1回 自己評価委員会:6月24日
第1回 関係者評価委員会:7月13日

第2回 自己評価委員会:1月26日
第2回 関係者評価委員会:2月15日

1 設置(三重県農業大学校条例)
農業に関する高度な技術及び経営について実践的な教育により、優れた農業経営者等の養成及び農林業者等の研修を行うため、三重県農業大学校を松阪市に設置する。

2 教育方針・研修方針

本県農業及び農村地域の中核的な担い手として、広い視野から判断し、行動できる経営感覚に優れた人材を養成するため、農業技術の高度化及び経営の革新に対応できる技術能力、経営判断能力等の養成、自己の確立と協調性に富む人材の養成、明日の三重県農業を拓く、創造力、実践力豊かな人材の養成に重点を置いて実践的な教育を行う。

3 本年度に取り組む重点目標

(1) 意欲ある学生の確保、(2) 学生教育の充実、(3) 就農・就職支援の強化、(4) 農業農村をリードする人材の育成

4 評価項目と具体的方策・評価

重点目標:(1) 意欲ある学生の確保

自己評価:達成度の基準
(A 達成、B ほぼ達成、C 未達成)

現状と課題	評価項目	具体的方策と評価指標	取組経過と実績	自己評価	今後の改善方策	学校関係者評価委員会の意見提言
<p><現状> 近年の入校者数は、平成30年度が二年課程9名、一年課程5名、計14名と、定員40名の35%の学生数しか入校せず大きく落ち込んだ。平成31年度(令和元年度)は35名(二年課程24名、一年課程11名)、令和2年度が34名(二年課程25名、一年課程9名)、令和3年度は35名(二年課程23名、一年課程12名)、令和4年度は37名(二年課程26名、一年課程11名)と増加し、それぞれ定員の約87%、85%、87%、93%と増加したものの、定員を満たすまでには至らない。</p> <p><課題> 農業大学校の強みである実践的な教育内容、関係機関との連携、卒業後の進路などを各種広報活動やイベントを通じて積極的にPRし、学生募集を強化していくことで、新規入校生を確保していく必要がある。</p>	学生の確保	<p>①学校訪問 県内の高校(進路指導部)訪問を実施し、農大の概要や魅力、卒業後の進路を説明し、意見交換を行う。 ・県内(通信制のみ除く)全73高校の訪問 2回/年</p> <p>②学校見学会 高校生の進路決定前の6月に、農大の概要説明と主要施設の見学機会を提供する。 ・学校見学会の開催 2回/年 (※)各コース紹介コンテンツアーカイブ化への取組。</p> <p>③オープンキャンパス 高校の夏休み期間に、3年生の進路決定、1・2年生へのPRを目的に実習・講義の体験機会を提供する。 ・オープンキャンパスの開催 2回/年</p> <p>④就農チャレンジ研修<社会人対策>(後掲) 就農を考えている社会人を対象に就農支援制度紹介や個別相談を実施する。(一年課程入校相談) ・就農チャレンジ研修の開催 2回/年</p>	<p>①学校訪問 学校見学会開催前(6月10日まで)、推薦入校試験受付終了前(10月11日)までを期限として、県内全域の高校訪問を実施した。 【実績】訪問2回実施</p> <p>②学校見学会(CV) 計画どおり開催した。また、コロナでの中止を見据え、デジタルコンテンツを作成した。 【実績】2回実施(全21名)(6/19(日):16名、6/25(土):5名)</p> <p>③オープンキャンパス(OC) 計画どおり開催した。 【実績】2回実施(全51名)(8/18(木):24名、8/21(日):27名)</p> <p>※参考 学校説明会(CV)、オープンキャンパス(OC)出席者の受験割合 ・二年課程受験者29名、うちCV:10名(34%)、OC:25名(86%) ・一年課程受験者 8名、うちCV:1名(13%)、OC:6名(75%) <補足>CV参加者は全てOCに参加している。</p> <p>④就農チャレンジ研修(後掲)</p>	A	<p>①②③④ ・令和5年度の学生の確保については、前期試験終了時点で入校予定者は、二年課程28名(推薦23名、前期試験5名)、一年課程5名となっている。(後期試験は3月)。今後とも各試験機会(推薦、一般)を通じて、意欲のある学生をバランスよく確保できるように、高校進路ガイダンスや本校各種学生募集行事を通じて、本校志望学生が求める情報を的確に提供できるようにきめ細かな対応を講じていく。 ・受験者の多くは、オープンキャンパスに参加しており(また、学校見学会参加者は全てオープンキャンパスにも参加)、これら行事は農大を知ってもらう絶好の機会になっていると考えられることから、学校訪問や進学ガイダンス時にしっかり周知を行い参加の促進を図る。 ・農業高校関係者による本校の会場活用(農業クラブ発表会や校長会)や情報交換(農場主任者会議や農業教育研究大会)、農業高校生による視察見学会(R4年度は2校)などを通じて、農業高校の先生方や学生が本校を農業就業を目指す主要進路と認識していただける関係づくりを進める。 ② ・学校見学会に向けて作成したデジタルコンテンツは、HPやInstagramなどで学校紹介動画として活用していく。</p>	<p>①②③ ・二年課程については、現時点で定員30名に対し28名の入校予定者を確保しており、取組が成果をあげているといえる。 ・数年前に比べると、ありとあらゆる手を尽くして学校をPRしている、学校側の意欲を評価します。定員を満たすという着地点を目指して引き続き取り組んでいただきたい。</p>
	広報活動	<p>⑤関係機関との連携やメディアを活用したPR 入校試験情報等の関係機関広報紙への掲載や、県HPやマスメディア等を活用した広報を行う。 ・各種情報媒体での広報活動 10回/年</p> <p>⑥PR資料の作成と効果的な活用 卒業後の進路情報を掲載した農大入校後のキャリアデザインが描ける魅力あるPR資料を作成し、ガイダンス等で活用する。 ・キャリア教育プログラムの作成【別紙】 ・学校要覧(R3改訂版)の配付・活用 ・進路ガイダンス等でのPR動画(R3作成)の活用 ・適正量の印刷物の作成(紙使用量の削減)△3%</p> <p>⑦HPやSNSでの情報発信の充実 HPやFacebook情報の充実に加え、新たにInstagramによる情報発信を行う。(学生参加型) ・HP、Facebook等の更新 60回以上/年 (※)各専攻の学生の取組を年間を通じてInstagramで発信</p> <p>⑧就農相談会等での学校新体制のPR 若手職員を就農相談会へ派遣し活力ある職員体制をPRする。 ・就農・就職フェアへの若手職員派遣 1回以上</p> <p>⑨農大ファンの拡大 農産物販売や農大祭を通じて農大を知ってもらい、農大を応援してもらえるファンを増やす。 ・農産物販売(水曜販売(実習))40回以上/年 ・ウイズコロナ・アフタコロナに対応した農大祭の開催 1回/年</p>	<p>⑤関係機関との連携やメディアを活用したPR 県、市町、JA等の関係機関に募集要項・PRチラシを配布し本校のPRを依頼した。また、県HP、県政だよりで、FM三重等で情報提供を行った。 【実績】三重県HPや関係メディアを活用した広報 9回(県HP8回、JA広報1回)</p> <p>⑥PR資料の作成と効果的な活用 キャリア教育プログラムに基づき、就農・就職支援のための授業や面談を計画的に実施するとともに農林水産部と連携し、学校要覧の改訂版を作成した。 【実績】キャリア教育プログラムに基づく授業・面談等の実施、学校要覧の充実(校内案内図の追加、OB欄の改定) 学校見学会等各種行事でのPR動画活用、紙使用量の削減(10%)</p> <p>⑦ホームページ等の充実 学校HP:43回、Facebook:31回、Instagram117回更新し、情報提供やPRを行った。 【実績】 延べ191回の更新(1月末時点)</p> <p>⑧就農相談会等での学校新体制のPR 入校希望者と年齢の近い若手職員による学校PRを実施した。 【実績】1回(2名)(7/2開催)</p> <p>⑨農大ファンの拡大 水曜販売は概ね計画どおり開催できた(会員数:564名(対前年102名増)) 農大祭(水曜販売感謝祭拡大版)は、来場者を事前申込予約制とし、特別販売会(松阪地域卒業生5件の出店協力)と子ども農業体験を開催した。 JA及び県関係機関イベントへ参加し、本校のPRと農産物販売を行った。 【実績】農産物販売48回(見込み)、1,204名来場(1月末) 農大祭(水曜販売感謝祭拡大版)1回(12/3、134名) JAみえなか合併記念イベント(11/20) 子ども応援!わくわくフェスタ(2/4)</p>	A	<p>⑤ ・現在実施しているPRの取組は、関係機関に協力を得て継続して実施していく。</p> <p>⑥ ・キャリア教育プログラムに位置付けた授業や面談等については、学生及び担当教官や外部講師の意見を踏まえ、より効果的な内容に改善を図っていく。</p> <p>⑦ ・昨年度、改善方策として位置付けた校内活動のSNS等での発信については、着実に回数を増やし取り組むことができたが、専攻間等で発信回数に偏りがあるため、今後は実習内容や行事内容の発信について計画を定めて情報発信に取り組んでいく。 ・学生が提供した情報をInstagramで発信するなど学生参加型で日々の学生生活等を発信することができたので、こういった取組をより充実させていく。</p> <p>⑧ ・入校希望者と年齢が近く、就農相談に参加した経験の少ない若手職員を就農相談会等の場へ派遣することで、若手職員の就農相談スキルの向上を図るとともに、若手を配置した職員体制をアピールしていく。</p> <p>⑨ ・水曜販売、農大祭の取組は、学生の自主的活動を促しながら、引き続き実施していく。特に農大祭については、コロナ禍前の従来型での再開に向けて、計画的な準備を進めていく。また、同様にコロナ禍以前に実施していた県庁マルシェについても、開催頻度を再検討のうえ再開に向けて準備を進める。 ・農大PR、ファン拡大のため、関係機関イベントへの積極的な参加を検討していく。</p>	<p>⑤⑥⑦⑧⑨ ※これらの取組に対する異論や改善に向けた指摘はありませんでした。</p>